

会社概要・編集方針	2012年度ハイライト	トップコミットメント	金融機関として 取り組むべき優先課題	優先課題: ケーススタディ	SMFGにおけるCSR
盤石な経営体制	CS・品質向上への取り組み	環境活動	社会貢献活動	人の尊重と人材活用	各種データ集

金融機関として取り組むべき優先課題：ケーススタディ

震災復興

被災地支援ボランティアの実施

2011年3月11日の東日本大震災は、東北地方にとどまらず、日本が潜在的に抱えていたさまざまな社会的課題を浮き彫りにしたとも言われています。当社グループでは、時とともに変化する被災地のニーズに合わせて、継続的に被災地支援ボランティア活動を行っています。



三井住友銀行では2011年4月に「震災復興特別休暇」を創設し、同年5月から、役職員による被災地支援ボランティア活動を開始しました。2011年は側溝からの泥のかき出しや写真の整理など、翌年からは田畑や公園の回復作業、仮設住宅訪問、地域のイベント運営サポートや海岸林再生のための育苗など、宮城県沿岸部で活動するNPO団体等と連携し、変化する現地のニーズに即した活動を継続的にを行っています。2013年7月までにのべ18回実施し、有志役職員約360名が参加しました。

また、2012年と2013年の8月には、役職員の家族も対象とするボランティア活動を実施し、のべ約40家族、110名が参加しました。

東京都内においても、ボランティアスタッフYUIが中心となって、避難されている被災者の方々との交流会などを定期的に開催しています。

SMBC日興証券でも、2011年度に続き、2012年7月、宮城県において、2012年度の新入社員による被災地支援活動に取り組みました。新入社員280名を含む、総勢345名が参加し、漁業支援をはじめ、地元のニーズに基づいた活動を行いました。参加した新入社員は、これらの被災地支援活動を通じ、社会貢献活動の意義やその重要性を学び、新入社員間の一体感の醸成にもつながりました。

本業を通じた被災地復興に向けた取り組み

当社グループでは、東日本大震災からの復興という大きな課題に対して、グループ各社の特色を活かし、本業を通じた被災地の復興に向けた取り組みに注力しています。



三井住友銀行では、東北法人営業部・東北ビジネスサポートプラザや自治体との取引を担当する公共・金融法人部を中心に、行内横断的に情報交換を行う「復興協議会」を定期的に開催し、被災地の復興に資する取り組みを進めています。

三井住友ファイナンス&リースでも、被災した設備の入れ替えや、工場移転への対応など、被災地のニーズに関して社内一元化を図り、迅速な対応に努めています。

SMBCコンシューマーファイナンスでは、震災発災後、お客様サービスプラザの社員が本業を活かし、被災地の災害ボランティアセンターの支援活動を行っていましたが、2012年度は、被災地を狙った金銭詐欺等を未然に防ぐため、仮設住宅団地に赴き、金銭啓発活動に取り組みました。

今後も、被災地域の復興や活性化につながるような事業の支援を行ってまいります。

2012年度ダイアログを受けて

2012年7月、SMFGで開催したステークホルダー・ダイアログでのご意見を踏まえ、現地の人々や活動しているNPO団体等と連携し、今後も、刻々と変化する被災地のニーズに合わせて、さまざまな復興支援活動を継続的に実施していきます。

→ WEB ステークホルダー・ダイアログ(被災地支援ボランティアの振り返りと今後の活動に向けて)
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/csrfinance/stakes201201/index.html>